

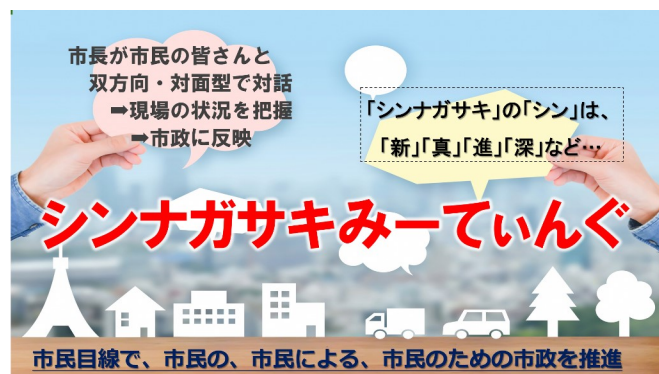
シンナガサキミーていんぐ開催レポート

i n 南長崎小学校区



令和6年6月23日（日）、自治会やまちづくり協議会、育友会、民生児童委員など13人の皆さんにお集まりいただき、南長崎小学校区の「シンナガサキミーていんぐ」を開催しました。

自己紹介では、子どもの見守り活動や高齢者サロン、清掃活動、防犯活動などそれぞれの立場で地域のために行っていることや、日頃暮らしていく中で感じていることなどをお話いただきました。



いただいたご意見

①少年補導委員や消防団員の定年年齢について

少年補導員は70歳が定年。消防団員は65歳が定年。担い手不足問題もあるが、元気な高齢者はたくさんいる。「定年を延長してほしい」という声もあるので、検討してもらえないか。

市の考え方 回答

現在、長崎市少年補導委員の年齢は、委嘱時の年齢を70歳未満（初めて委員になる場合は、65歳未満）を上限としています。

この年齢の上限については、補導委員で構成する長崎市少年補導委員協議会の令和6年度総会において、補導委員のなり手不足や65歳を超えても元気に活動できる方がいることを踏まえ、定年年齢を延長してほしいとの意見があったことから、長崎市少年補導委員協議会三役会や幹事会の議題とし、協議を行っているところです。

他都市や同様の活動を行っている社会団体の定年制も踏まえ、令和6年度中に定年年齢の方針を整理する予定です。

また、現在の消防団の定年年齢は、団長・副団長が70歳、分団長以下の団員が65歳となっています。しかしながら、65歳になられた団員の中には、体力及び気力的にまだまだ活動できる団員もおられるようです。そこで、団員確保のためにも、希望する団員については70歳を上限に定年を引き上げる等の定年制度の見直しについて、現在消防団と協議しながら検討中です。

②地域の担い手不足に対する取組みについて

地域の担い手不足の問題について、後進の育成と交代が重要だと考えている。この課題について、現在の取組みや検討していることがあれば教えてほしい。

市の考え方
回答

地域活動の担い手不足については、他都市の事例の情報共有につなげるため外部から講師を招いて担い手育成研修を開催しているほか、自治会での情報共有や情報発信などを学ぶLINE・ZOOMの使い方研修の開催や、電子回覧板の試験導入を行っているところです。

また、市内企業等の地域活動への支援や従業員の地域活動への参加を促すための「地域貢献企業認定制度」を創設したことに加え、市職員が地域活動に参加しやすくなるような制度を現在検討しているところです。

③街路樹付近の歩道について

団地内は街路樹が豊富だが、年月が経つにつれて街路樹の根元が膨らみ、歩道が盛り上がっているところが数十か所ある。高齢者がこの盛り上がりにつまずいて転倒する事案があるため、何か措置ができないか。

市の考え方
回答

路面補修にあたっては、街路樹の伐採・伐根を行う必要があり、補修後の再植樹は難しいため、地域住民のご意見を聞きながら進めて行きたいと考えております。

市道や市施設について何かございましたら、地域センターにご相談ください。

そのほか、「健康マージャンで特色あるまちづくりをしていきたい」、「大学生など若い世代を巻き込めるよう地域活動も工夫していきたい」、「市営住宅の草刈りが負担になってきている」などのご意見をいただきました。

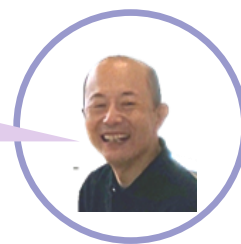
いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。



鈴木市長のひと言

忌憚のない意見をいただきありがとうございました。みなさん、地域の中でそれぞれの立場で地域に貢献されているということがよく分かりました。

ちょっとした発想や地域でみなさんの知恵を結集することで、地域の課題を解決できることもあると思います。まずは皆さんで集まって意見を出し合う場ができるといいなと感じました。



参加者からの感想

市長が地域の課題を聞きに来られたことに、親近感がわき、とても良かったです。

車座で市長のお話を聞き話し合う場を作っていただきありがとうございました。建設的な市長のお話を聞くことができて良かったです。

地域が抱えている問題点を自分が知らない視点から聞くことができた。

多岐の話題について、コメントやアドバイスをいただきありがとうございました。

